

平成26年度
こころ医療福祉専門学校
学校自己評価結果報告書

平成27年4月20日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
(平成25年) 準拠

1. 学校の教育目標

<ビジョン>2020年までに長崎県No.1教育機関になる。
<実現に向けたテーマ>思いやりと創造・グローバル化・全てのニーズに応える。
<基本方針>※具体的な方策

1. 教育 合格率100%(国家資格・資格試験)
就職率100%
2. 企業や地域との社会連携・社会貢献
3. 社員満足度
4. 留学生の受入れ・海外教育機関との連携

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 教育 合格率100%(国家資格・資格試験)
就職率100%
2. 企業や地域との社会連携・社会貢献

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | | |
|--|-------------------------------|---|---|---|--|
| ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか) | 4 | 3 | 2 | 1 | 学校理念は明確である。 |
| ・学校における職業教育の特色は何か。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 等しく可能性を信じた人格形成と、主に人対人の施術を通じた社会的貢献を目指す。 |
| ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 職業実践専門課程としての機能を活かし、関連業界の動向と将来性を常に注視し、学校運営に反映させている。 |
| ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 志望段階、入学前のガイダンス、入学後、学年ごとに学生、保護者面談等で周知活動は重ねているが不十分。 |
| ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 職業実践専門課程としての機能を活かし、関連業界の動向と将来性を常に注視し、学校運営に反映させている。 |

①課題

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・常に関連業界と連携を取りながら、業界の動向には注意を払い、将来性を見据えて教育内容を組み立てているが、伝統的な国家資格の枠組み自体が時代のニーズを反映しにくい構造にあり、伝統に基づきながら業界動向にマッチした新しい業態に対応できるような柔軟さを持つ必要がある。 ・学校の理念、教育目標等の保護者への周知はまだ十分とは言えない恐れがある。 |
|--|

②今後の改善方策

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・職業実践専門課程の教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会を通じた関連業界との連携をさらに強化するとともに、関連業界の動向の把握に努め、より精度の高い将来性の評価能力を開発していく。 ・学校の理念、教育目標等について、保護者との直接面談、広報誌、インターネット等による周知の機会を増やす。 |
|--|

③特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | | |
|--|-------------------------------|---|---|---|--|
| ・目的等に沿った運営方針が策定されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 年間を通じた教職員研修会の場で理事長よりの運営方針等が示されている。 |
| ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 理事長の運営方針を受け、校長を中心として、各教職員が四半期ごとにPDCAサイクルを実施している。 |
| ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 組織図、各種会議が規程で示され、定期的に開催され、議事録を回覧している。 |
| ・人事、給与に関する規定等は整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 整備されている。 |
| ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | ほぼ整備されている。 |
| ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 職業実践専門課程の認可を受け、地域行事への参加など、関係は良好である。 |
| ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | カリキュラム、時間割、シラバスは学生に配布している。 |
| ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | OA機器の導入、イントラネットの構築など、業務の効率化は図られている。 |

①課題

教職員個人個人のPDCAサイクルは実践され定着しつつあるが、これを各課、各学科のPDCAサイクルとして、個から集団に引き上げ、実施していきたい。

時間割、カリキュラム等のホームページ公開についても検討していきたい。

②今後の改善方策

27年度は個人単位のPDCAサイクルの実施を行い、28年度の各課、各学科単位のPDCAサイクルの実施に向けての協議検討を進めていく。

③特記事項

PDCAサイクルの実施は、平成25年度より実施している。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | | |
|---|-------------------------------|---|---|---|---|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 策定されている。 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 教育課程編成委員会にて協議を重ねており、学生便覧に明示している。 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 指定規則に基づき、体系的に編成されている。 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | キャリアサポーター教員の主導により、工夫している。 |
| ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 教育課程編成委員会を開催し、関連業界との連携をとっている。 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 授業評価アンケートを年2回実施しているが、授業内容や教授法について、把握、評価する体制が充分ではない。 |
| ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 学校関係者評価委員会を設置し、意見を取り入れている。 |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 学生便覧に明示し、学生にも説明している。 |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 専門基礎を土台とし、専門科目や実技に繋げ、体系的に行われている。 |
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 全教員が人材育成を念頭に置いた学生への関わりを行っている。 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 関連業界との連携は、全教員が常に意識して活動している。 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 教員の専門性を向上させる研修は行っているが、充分ではない。 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 外部講師を招聘し職員研修会を定期開催している。外部研修への参加も積極的に行っている。 |

①課題

授業内容や教授法について、把握、評価する体制が充分でない。
教員の専門性を向上させる研修は行っているが、充分ではない。

②今後の改善方策

計画的に、相互の授業見学を実施し、教授法の向上に努める。
教職員が参加した学会、セミナー等の伝達講習会を定期的で開催し、情報の共有化を図るとともに、教職員の質の向上を図っていきたい。

③特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | | |
|---|-------------------------------|---|---|---|--------------------------------|
| ・就職率の向上が図られているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 各学科と就職課で協力しながら支援体制が整っている。 |
| ・資格取得率の向上が図られているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 資格・国家試験対策会議を実施し、反映されている。 |
| ・退学率の低減が図られているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 成績不良者への対策は行っているが、まだ充分ではない。 |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 卒業生の巡回や在校生の面談を行っているが、まだ充分ではない。 |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 卒業研修会を行っているが、一部不十分である。 |

①課題

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績不良者への対策は行っているが、担任力の向上の工夫が必要である。 ・卒業生に対するフォローアップ体制が十分でない。 |
|--|

②今後の改善方策

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談、個別指導状況を学科ごとにまとめ、毎月、確保していく。 ・卒業生の職場訪問を教職員が定期的に行い、情報の共有化を学科間および広報課と諮っていく。 ・各学科ごとの同窓会や研修会の開催を準備していく。 |
|---|

③特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | | |
|---|-------------------------------|---|---|---|-------------------------------------|
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 教職員が連携した組織的な就職支援体制を取っている。 |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | カウンセラーの配置など、相談内容に応じて教職員が相談に応じている。 |
| ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 日本学生支援機構等の奨学金が利用可能。学費の分納にも対応。 |
| ・学生の健康管理を担う体制はあるか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 看護職員による保健室管理運営に加え、毎年の集団健康診断を実施している。 |
| ・課外活動に対する支援体制は整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 認可された課外活動に補助金を支給している。 |
| ・学生の生活環境への支援は行われているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 遠隔地からの入学者に転居費用の一部補助やスクールバス運行など。 |
| ・保護者と適切に連携しているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 学科ごとに毎年、保護者意見交換会を実施している。 |
| ・卒業生への支援体制はあるか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 卒業生の技能向上やキャリアアップ支援等を行っている。 |
| ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 社会人のために夜間部を設置し、校内駐車受入れなど優遇措置を取っている。 |
| ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 各種資格講習会や高校訪問授業のほか、通信制高校等との連携実績がある。 |

①課題

・課外活動においては校内での十分なスペースの確保が難しい。
 ・保護者への周知は、保護者説明会の回数や参加率の向上が望まれる。
 ・卒業生への支援においては、学科によっては同門会の活動などが活発であるが、全学的にはまだ不十分である。

②今後の改善方策

・課外活動の場として、利便性の高い学外施設の利用を進め、課外活動の幅を広げる。
 ・連絡網の整備や日常的な情報交換の機会を増やし、保護者との連携を高める。
 ・各学科で同門会・同窓会組織を充実させ、卒業生の動向についての情報交換を活発化する。

③特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | |
|--|-------------------------------|--|--|--|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 | 4 (3) 2 1 | 法令に従い適切に整備している。 | | |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 | 4 (3) 2 1 | 適切な実習施設を確保している。 海外の教育機関や公的研修施設と連携して適切な海外研修を実施している。 | | |
| ・防災に対する体制は整備されているか。 | 4 (3) 2 1 | 防災設備の点検、危険個所の適宜改善、設備管理業者立ちあいのもと、全生徒による避難訓練の実施など、体制を整備している。 | | |

①課題

| |
|----|
| なし |
|----|

②今後の改善方策

| |
|--|
| ・設備面でのメンテナンスなど、学生等に不便をかけないように定期点検をさらに強化していきたい。 |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|---|--|--|
| ・学生募集活動は、適性に行われているか。 | 4 (3) 2 1 | 県の指導に従って募集活動に努めている。 | | |
| ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 | (4) 3 2 1 | 募集パンフレットやインターネット上で、資格試験合格率、就職内定率等を正確に伝えている。 | | |
| ・学納金は妥当なものとなっているか。 | (4) 3 2 1 | 他校に比べても平均的な額である。 | | |

①課題

・県内の高校新卒の願書受付は県の指導により毎年10月を待たないと開始できないが、指導の監督下でない県外の学校等が本県内で早期の学生獲得活動を半ば自由に行っているため、県内の高校新卒者が県外に流出しやすいので、対策が必要と思われる。

②今後の改善方策

・県内高校新卒者にとって、県外校より魅力のある学校になるように改善を重ねていく一方で、県外の広域の高校新卒者に対しても積極的な募集活動を展開して学生数の確保に努力する。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | | | |
|----------------------------|-------------------------------|---|---|---|---|-----------------|
| ・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 | 4 | ③ | 2 | 1 | 少子高齢化対策として、学科の改廃などの計画を策定し、財務基盤の安定化を図っている。 | |
| ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 | 4 | ③ | 2 | 1 | 予算作成に際して、校長査定、理事長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。 | |
| ・財務について会計監査が適性に行われているか。 | ④ | 4 | 3 | 2 | 1 | 適時、内部監査を実施している。 |
| ・財務情報公開の体制整備はできているか。 | ④ | 4 | 3 | 2 | 1 | 公開している。 |

①課題

少子高齢化対策として、学科の改廃などの計画を策定し、財務基盤の安定化を図っているが、教育機関という立場から、迅速な事業展開を行う事が容易ではなく、結局のところは経費節約等に対応せざるを得ない。

②今後の改善方策

附帯教育の強化など、新しい事業展開も検討していきたい。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | |
|---------------------------------|-------------------------------|--|--|--|
| ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか。 | 4 (4) 3 2 1 | 学校教育法、各種養成施設設置規則等を遵守している。 | | |
| ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 | 4 (3) 2 1 | 個人情報管理規程の整備、文書ロッカーの施錠、使用済名簿のシュレッダー廃棄等実施している。 | | |
| ・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。 | 4 (3) 2 1 | 毎年、指導に従った自己評価を実施している。 | | |
| ・自己評価結果を公開しているか。 | 4 (4) 3 2 1 | 自己評価結果をインターネット上の学校ホームページに公開している。 | | |

①課題

・授業評価アンケート結果から、問題点の改善には努めているが、全体的な一定の改善効果は見られるものの、個別の授業改善の効果が表れるまでには時間がかかっている。

②今後の改善方策

・教員のPDCAサイクルにも授業評価アンケート結果をよりよく反映させる。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | | |
|---|-------------------------------|---|---|---|--|
| ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 | ④ | 3 | 2 | 1 | 近隣住民の災害予防のため、避難施設としての提供、自治会行事への積極的参加など実施している。国家試験会場として施設を提供した。 |
| ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。 | ④ | 3 | 2 | 1 | 施設や自治会等からのボランティア依頼の伝達及び、学生引率など実施している。 |
| ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。 | ④ | 3 | 2 | 1 | 毎年、一定の職業訓練生を受け入れている。関連する専門資格者による各種研修や、公開講座の開催など実施している。 |

①課題

・学校の立地や設備の制限のあるなか、最大限の活用に努めているが、さらに社会貢献・地域貢献に努めたい。

②今後の改善方策

・様々な団体との連携により、学内外の施設を利用した社会貢献・地域貢献の機会も増やしていく。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

| 評価項目 | 適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1 | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|---|---|---|--|
| ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 介護福祉科への受入れを前提に、関連の日本語学校への教員派遣など、一定の戦略は持っている。 |
| ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 関連校での留学生受入れは計画通りに進んでおり、本校での受け入れ準備も進めている。 |
| ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 関連校での留学生受入れは計画通りに進んでおり、本校での受け入れ準備も進めている。 |
| ・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。 | 4 | 3 | 2 | 1 | 介護分野での就労ビザの緩和など、制度変更に合わせて戦略を立てている。 |

①課題

担当者レベルでの意識付は行われているが、全学での意識付にはまだまだ不十分さを感じる。

②今後の改善方策

留学生受け入れに関する必要性などについて、研修会を通しての意識付けは実施しているが、方針等を学校の運営方針として明確に掲げ、全学の取り組みとするための研修会等の実施を計画したい。

③特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な方策

- 1 教育 合格率100%(国家資格・各種民間資格)
就職率100%
- 2 企業や地域との社会連携・社会貢献
- 3 社員満足度
- 4 留学生の受け入れ・海外教育機関との連携

常に「何のためにを追求」し、「社会が求める人材の育成」に尽力し、「人格の形成」と「社会に貢献」することに努め、「信頼あるプライドのもてる学校づくりを目指す。」という本学園の理念に基づいて、上記具体的な方策を定めた。

1 教育について、

各学科100%という目標合格率には到達しなかったが、教職員が意識を持って対応した結果、殆んどの学科において、全国平均を上まわった。就職率は、全ての学科で100%を達成する見込みである。

2 企業や地域との社会連携・社会貢献

専門学校として教育の質を向上させるため、平成26年度、職業実践専門課程の認可を目指した。その過程で「学校関係者評価委員会」及び「教育課程編成委員会」を開催し、両委員会において、企業からの本学園に対する建設的な意見や、現場における貴重な情報を聴取する等、企業との連携の深化が図られた。

地域主催で開催される各種スポーツ大会や高等学校の部活動において、セラピスト&フィットネス科教職員のボランティア活動や実習を兼ねたスポーツトレーナーとしての学生のボランティア活動を行った。また本校が所在する地域の行事に積極的に参加し、地域の自治体会議に本校会議室を会場として開放する等、社会貢献にも力を入れている。

3 社員満足度

国家資格の高い合格率や100%達成の就職状況、地域・高等学校等へのボランティア活動等を通して、本校活動に対する地域の方々の理解と支援を実感し、地域に貢献できるプロフェッショナルを育成するという地域に根ざした教育活動にプライドを持って従事できている。

4 留学生の受け入れ・海外教育機関との連携

本学園グループの学校法人第二岩永学園、こころ美健福祉専門学校「日本語科」に、東南アジア・南アジアからの留学生を受け入れ、就職・進学支援に向けて指導を行っている。更に、南アジアからの留学生を受け入れるべく、こころ医療福祉専門学校佐世保校に平成28年度「日本語科」開設を目指し準備を進めている。また、本校の専門課程においても外国人留学生の受け入れを検討している。

1. 学校の教育目標 平成27年度

- <ビジョン>2020年までに長崎県No.1教育機関になる。
<実現に向けたテーマ>思いやりと創造・グローバル化・全てのニーズに応える。
<基本方針>※具体的な方策
1. 教育 合格率100%(国家資格・資格試験)
就職率100%
 2. 企業や地域との社会連携・社会貢献
 3. 社員満足度
 4. 留学生の受入れ・海外教育機関との連携

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 教育 合格率100%(国家資格・資格試験)
就職率100%
退学率の低減(30名 ⇒ 名以下)
2. 企業や地域との社会連携・社会貢献
3. 教育を通じた国際貢献 …… 留学生の入学受入れ